

解 答	1 (C)	2 (C)	3 (D)	4 (C)	5 (D)	6 (C)
	7 (B)	8 (A)	9 (B)	10 (A)	11 (C)	12 (A)
	13 (D)	14 (A)	15 (A)	16 (D)	17 (B)	18 (C)
	19 (A)	20 (C)				

1. 「私たちは家のペンキを塗るためにさらに数日を与えられた」

- ▶ 空欄前は We have been given a few more days で文として完結している。
主語 述語 目的語

(A)finish, (B)have finished, (D)could finishは完結した文のあとに続けることができないので文法的に不可である。(C)to finishを選べば、a few more daysを修飾し、「『家の塗装を仕上げるための』さらなる数日」という意味になる(to不定詞の形容詞的用法)のでこれが正解である。

2. 「コインを集めることは世界中で最も人気のある趣味の1つだ」

- ▶ Collectingという動名詞が主語なので動詞が単数のisになっていることに着目する。この場合、補語も単数でなくてはならないが、()の後がpopular hobbiesと複数になっている。(C)one of the mostを選べば『最も人気のある趣味の1つ』という意味で単数になるのでこれが正解である。
- ▶ (A)most, (B)the most, (D)almostでは補語が複数になるので文法的に不可である。
 one of the + 最上級 + 複数名詞 「最も～な…の1つ[1人]」

This is *one of the nicest rooms* in the hotel.

(ここは、このホテルで最も良い部屋の1つです。)

3. 「ジルが入院していることを知っていたら、お見舞いに行っただろうに」

- ▶ if節が仮定法過去完了であることに着目する。『ジルが入院していることを知っていたら』という過去の事実に対する仮定に対して適切なのは、(D)would have goneである。

(B)had better goは仮定法では使われない。(A)would go, (C)could goは仮定法過去の主節で用いる形なので不可。ただし、if節が仮定法過去完了であっても、主節に仮定法過去が使われる場合もあるので、機械的に判断するのは危険である。

■ if節と主節で、表す時が異なる場合

If I **had taken** the medicine *then*, I **might be fine** now. ⇨ **時を表す副詞に注目**
 (もしあの時あの薬を飲んでいたら、私は今元気になっているかもしれないのに。)

- ▶ if節では過去の事実に対する仮定としてhad takenという仮定法過去完了が使われているのに対し、主節では現在の事実に対する仮定として仮定法過去の場合の形が使われている。

4. 「家にテレビのない人は日本にはほとんど誰もいない」

- ▶ barelyが準否定語であることに注目。「barely[hardly] any + 名詞」で「ほとんど～がない」という意味になることから(C)anyone「だれも」が正解である。(D)anyは『物』を指す代名詞なので不可。(A)someone, (B)no oneは否定語とともに使われないので不可である。

barely[hardly/scarcely] any + 名詞 「ほとんど～がない」 (= almost no + 名詞)

She notices *hardly any* difference in their pronunciation.

(彼女はそれらの発音にはほとんど違いがないことに気づいている。)

5. 「この本を読んでみてはどう？読む価値があるよ」

- ▶ 選択肢には動詞readの様々な形が並んでいる。空欄前のworthは前置詞なので()には名詞または動名詞が入るから、(D)readingが正解である。

S is worth A(名詞)[doing] 「(人・物・事は)～に値する/～する価値がある」

His speech is *worth* listening to.

(彼の演説は聞く価値がある。)

6. 「2国間の関係を改善するためにはまだ多くのことがなされなければならない」
- ▶ 選択肢には動詞doの様々な形が並んでいる。空欄前のremainsは第2文型(SVC)を作る自動詞なので、Much(多くのこと)=(空欄)の関係である。『2国間の関係改善のために』と、これから先のことについて述べていると推測されるので、to不定詞を用いた(C)to be doneが適当である。(A)doingを選んだ場合の訳は、『2国間の関係を改善するため多くのことを行っている状態にある』となる。

S remain to be done 「(事が)これから～されねばならない」

Much work *remains to be done*.

(多くの仕事はまだこれからだ。)

7. 「先週のパーティーでは招待客は誰もがくつろいでいた」

- ▶ 選択肢には再帰代名詞が並んでいる。空欄に入るmadeの目的語は、主語であるall of our guestsと同じであるから、3人称複数の(B)themselvesが正解である。

make oneself at home 「くつろぐ」 (= **feel at home** [at ease])

Take off your coat and make yourself at home.

(コートを脱いで、気楽にしてください。)

再帰代名詞を用いた慣用表現

help oneself to ~ 「～を自由に取って食べる[飲む]」

enjoy oneself 「楽しく時を過ごす」 (= **have a good time**)

make oneself at home 「くつろぐ」 (= **feel at home** [at ease])

by oneself 「ひとりで(=alone)/独力で/ [by itself] ひとりでに」

for oneself 「独力で」

beside oneself 「我を忘れて」

in oneself 「それ自体では/元来」

8. 「マヤはセレーナ=ゴメスのコンサートを楽しみにしていたが、結局、中止になったとわかった」

- ▶ 空欄のあとは動詞(discover)なので、前置詞である(B)as toは文法的に不可。残りの選択肢はすべて不定詞であるので、文の意味から適切なものを選ぶ。前半部分で楽しみにしていたコンサートが、空欄以降で中止になったと分かるので、結果を表す(A)only to (do)「…だが結局～する」が正解である。

- ▶ (C)even to (do)「～するためにさえ」、(D)but to (do)「～する以外は」

..., only to do 「…だが～する(にすぎない)」 [結果]

We ran to the store, *only to find* it closed.

(私たちは店まで走ったが、閉まっていることがわかっただけだった。)

9. 「ソフィー、全然使わないのだから、そのミシンを取っておいても仕方ないわよ」

- ▶ 前置詞パターンの問題であるから、空欄前後の単語から慣用表現を構成する前置詞の可能性をまず考える。...there is no point () keepingから「～してもむだである」という表現を作る(B)inを当てはめると意味も通るので、これが正解である。

There is no point [use/good] (in) *doing* 「～しても無駄である」

There is no point (in) trying to persuade him.

(彼を説得してもむだだ。)

10. 「ジェイソンは長年カリフォルニアに住んでいたが、1996年以来そこには行っていない」

- ▶ 本問も前置詞の問題である。慣用表現の一部ではないので、前置詞のもつ意味から適切なものを選ぶ方針で解く。空欄前にhe hasn't been thereと現在完了形〔継続〕の表現があるので過去の始点を表す、(A)since「～以来ずっと」が適切である。

- ▶ (C)by「～までに(は)」は動作の完了期限を表し、(D)until「～まで(ずっと)」は継続の終了時を表す。

11. 「この数年でノース・マウンテン・カンパニーの売上げが上がっているのは良いことだ」

- ▶ 選択肢はすべて『動詞+副詞(up)』から成る自動詞である。このupは動詞の意味に「(地位・温度・価格などが)上がって、(人が)成長して、(物・事が)起こって、(建

物が)建てられて」などといった意味を付け加えている。

選択肢の意味はそれぞれ, (A)start up「(活動などが)始まる」, (B)grow up「成長する」, (C)go up「(物価・温度などが)上がる」, (D)set up「商売を始める」で, 主語が sales(売上げ)であるから(C)が正解である。

[例] *Hamburger has gone up this week.*

(今週ハンバーガーが値上がりした。)

12. 「私たちは皆アキコがグラスゴーまで列車で来ると思い込んでいたので、バイクで到着したときに本当に驚いた」

▶ 選択肢はすべてthat節を目的語にとるので, 文意から適切なものを選ぶ。so以下でアキコがバイクで現れて驚いた原因は彼女が列車で来るだろうと考えていたからなので, (A)assume that節「~を当然のことと思う」が適切である。

[例] *We assume that the results are satisfactory.*

(結果は満足のいくものと考えます)

realize that節「~だと理解する」

recognize that節「~だと認める」

estimate that節「~であると推定する」

13. 「ヨシオは夜によく眠れなかった。何とか眠れたのはせいぜい3時間足らずだった」

▶ 選択肢には似たような意味の動詞が並んでいるので, 語法の観点から空欄前後の構文を検討する方針で解いていく。直後がto sleepであることから, 空欄にはto不定詞を目的語に取る動詞が入ると推測できる。選択肢の中でto不定詞を取るものは(D)manageのみであるので, これが正解である。

(A)achieve「~を達成する」, (C)accomplish「~を成し遂げる」。(B)succeed in doing「~するのに成功する」(= manage to do)。

manage to do 「なんとか[どうにか]~する」 (= succeed in doing)

I managed to solve the problem.

= *I succeeded in solving the problem.*

(なんとかその問題を解決した)

14. 「『スタートレック』は私の大好きな最高のテレビ番組だ」

▶ 直前が前置詞ofなので, 空欄には名詞相当語句(名詞・代名詞・動名詞)が入る。選択肢の中では(A)all timeのみが名詞であるので, これが正解である。

その他の選択肢, (B)ever, (C)up to now「今まで」, (D)foreverは副詞である。

名詞 + of all time 「[直前の名詞を修飾して]古今を通じて~」

Ichiro is the greatest baseball player of all time.

(イチローは史上最高の野球選手だ)

have (got) to be ~ 「(人・物・事が)~に違いない」

He has (got) to be joking.

(彼は冗談を言っているに違いない)

15. 「ジョンは愛情深い家庭で育てられたことを好運に感じている」

▶ 選択肢はすべて動詞bringを含む句動詞である。文脈から適切な意味のものを選ぶと, (A)brought up ~「~を育てる」が最適である。

bring up A 「Aを育てる」 (= raise/rear)

I was brought up by my grandparents. [受動態]

(私は祖父母に育てられた)

bring A to 「A(人)を正気づかせる」

A shot of brandy brought the woman to.

(1口のブランデーでその女性は意識を回復した)

bring A along 「Aを持ってくる」

You can bring your friends along to the party.

(パーティーに友達を連れて来てもいいよ)

bring on A 「A(災い・病気など)をもたらす」

His overwork *brought on* an illness.

(彼は過労が原因で病気になった)

16. 「サラは通常より高い料金を請求されたので、タクシーの運転手と口論になった」

- ▶ 選択肢には意味の近い動詞が並んでいるので、語法を問う問題と考えられる。空欄直後のwithに着目すると、(D)argued (with ~)「~と口論する」が適切である。その他の選択肢は、直後にwithを取らない。

argue with A about[over] B 「BについてAと口論する」

She *argued with herself over[about]* whether to marry him or not.

(彼女は彼と結婚すべきか否か自問自答した)

17. 「ケイスケは優秀な学生で、宿題を提出する前には必ず注意深く見直している」

- ▶ 選択肢はいずれも意味の異なる他動詞なので、文脈に合ったものを選ぶ。空欄直後のit=his homeworkであるから、(B)submitting「~を提出すること」が最も相応しい。

その他は(A)pass「(試験など)に合格する/~のそばを通り過ぎる」、(C)hand A B「A(人)にB(物)を手渡す」、(D)turn「~を回す」という意味である。

18. 「委員会は私たちの提案を受け入れ、市長にそれを推薦した」

- ▶ 空欄直後が名詞(目的語)our proposalであるので、(A)agreedと(D)decidedを入れる場合はagree to, decide onという形で前置詞が必要である。よって(B)ruled「~を支配した」、(C)accepted「~を受け入れた」のうちから文脈にあったものを選ぶ。目的語our proposal「私たちの提案」に合うのは、(C)acceptedである。

agree with ~ 「(人)と意見が一致する/(人の意見)に賛成する」

agree to ~ 「(計画・提案など)に同意する」

decide on A 「Aに決める」

decide on doing 「~することに決める」(= **decide to do**)

He *decided to* postpone his departure.

= He *decided on* postponing his departure.

(彼は出発を延期することに決めた)

19. 「メアリーは気分が良くなかったので、体温を測るために体温計を買った」

- ▶ どの選択肢にも『調べる』という意味があるが、体温を測る場合は(A)checkが最適である。(B)examineは「専門家などが調査する」場合、(C)inspectは「欠陥の有無などを詳しく調べる」場合、(D)testは「人・物・事を対象に試験する」場合に使われる。

20. 「京都行きのジョーの列車は午前10時に出発するので、彼は名古屋駅には遅くとも9時45分にはいなければならない」

- ▶ 空欄直後のthanより、比較級の(C)laterが正解。